

# 平成22年度 学校自己評価システムシート (武南高等学校)

目指す学校像	豊かな人間性の確立と進学実績の向上を目標の柱とし、21世紀の社会に貢献できる自主自立の精神に満ちた人間を育成する。
--------	---

重点目標	1 授業の充実・改善 2 開かれた学校づくり 3 進学実績の向上 4 生活指導の徹底 5 部活動・学校行事等の充実・振興
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4	名
	生徒		名

学校自己評価						
年度目標				年度評価 (3月16日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策
1	チャイムツーチャイムは徹底されてきたが、更に質的向上を目指す。生徒の家庭学習時間を増加させることが重要である。	授業の充実・改善	①教材の徹底研究 ②SHRでの小テスト実施 ③校長による授業観察と面談 ④教員間の授業参観 ⑤授業公開 6月、10月実施 ⑥小論文指導能力向上研修 ⑦入試問題解法力向上研修	・授業観察と面談、評価 ・6・9月を教科指導力強化月間とし、参観後教科会で意見交換する。 ・参観者による評価。 ・生徒成績の客観分析	・6月に校長による全クラス5教科の授業観察および担当者との面談。 ・教科内での授業参観、報告書の交換。教科内での検討。 ・授業公開(アンケート結果) 6/5 177名 10/2 105名	・朝小テストの質的向上のため各教科で工夫し実施する。 ・家庭学習を増やす対策を考え厳しくチェックする。 ・模試成績の分析に基づいた授業評価を行う。 ・授業力向上研修を予備校等に派遣し行う。
2	オープンスクール、授業公開は好評であるが、来客数の増加を図る工夫が必要である。学校評価委員会を立ち上げ求められる学校像の実現に努力する。	開かれた学校づくり	①オープンスクール ②授業公開(1-⑤) ③ホームページ刷新 ④ブログの質の向上 ⑤組織の編成 ⑥委員会の開催	・専門業者によるホームページの刷新をはかる。 ・学校自己評価システム要項に基づき、委員を委嘱し委員会を開催する。	・9/11オープンスクール 673名来校(昨年:514) ・11月刷新 閲覧回数:24625件(昨年同時期より+5000) ・関係者評価委員会 第1回 11/17 第2回 3/16	・広報部及び21世紀構想委員会による募集・入試・広報等の改革により、開かれた学校のあり方を目指す。 ・学校評価委員会による意見や提言を真摯に受け止め、求められる学校像の実現のため具体策を策定し実行する。
3	生徒の将来につながる進路実現のため、組織の充実を図るとともに教員全員で対応する。生徒の学力向上と国公立、私立難関校の合格者数の増加を実現する。	進学実績の向上	①学年の取り組み ・個人面談の充実 ・指定校に逃げない指導 ・成績順選抜クラス編成 ・図書室の活用 ②全校協力体制実施 ・各教科センター対策 ・学校毎の対策補講 ・小論文添削指導充実 ③入試対策チーム組織 ④卒業生から学ぶ	・国公立合格 : 20 ・超難関大学合格 : 40 ・私立難関大学 : 100 ・利用時間の拡大 ・到達目標偏差値設定 ・小論文対策チーム ・生徒の偏差値アップ ・土曜講座等	・合格者数 国公立 : 8 早慶上理 : 10 私立難関大等 : 146 ・図書室利用 8568 (昨年:8957) ・全職員に「新小論文ノート」を配布・希望生徒の指導担当 ・卒業生2名による講座→土曜午後9回開講(英語・数学)	・進路指導部がイニシアチブをとり明確な目標、的確な情報、合格対策等を示し強力に推進する。 ・教科毎(コース・クラス)に数値目標を設定し実現させる。 ・コース毎に明確に目標大学を掲げ担当教員間の情報交換を密にしチームとして動く。 ・進路指導のノウハウを身につけるための研修に励む。
4	職員の意識改革を更に進める必要がある。服装・マナーについては改善されているが、更に徹底を図り優れた社会性を身につけさせる。	生活指導の徹底	①職員の意識改革 ・社会性をつける ・生徒、保護者、来校者に対する姿勢 ②生徒指導の重点 ・遅刻指導 ・授業見回り ・担任フォローアップ体制	・挨拶励行、マナーや約束厳守。化粧、腰パンの根絶。 ・挨拶励行、マナーや約束厳守。化粧、腰パンの根絶。	・服装・頭髪の状態は向上している。 ・小テストに備え全体的に登校時間が早くなっている。 ・学年毎校内巡回を、行い落ち着いたクラスを早期発見。	・全職員の意識改革の推進。 ・全校協力体制の強化。 ・全ての生徒の挨拶の励行を目指す。
5	厳しい条件の下で部活動は各種大会で実績を上げ、生徒会は新しい取組に挑戦しているが、これらの活動は人間性を育む最適の場であることを意識した指導を徹底していく。	部活動の振興と学校行事の充実	①部活動が人格を陶冶する場であることの自覚と責任。 ②礼儀を重んじる。 ③学校行事、学年行事の目的明確化、内容の工夫と充実。 ④父母の会、後援会と連携した環境美化・保全活動の実施。	・県代表となり全国の覇権を目指す。 ・学園祭運営委員会による規定等の見直し、充実。 ・生徒会の活性化。 ・6、10、2月クリーン作戦	・関東大会・高校総体・国体出場(水泳・陸上・スキー) ・文化祭来校者数2日間 2995 (昨年:2137) ・生徒会の活動促進委員を中心として、3回のクリーン作戦をおこなう。	・部活動の環境整備 ・生徒会各種委員会活動の促進 ・学校行事・各会の行事及びその他の場面で父母の会・後援会・同窓会との連携を一層推進する。

学校関係者評価	
実施日	平成23年3月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・SHRでの小テストは評価できる。成績向上に着実につながる。 ・教員間の授業参観をさらに充実させ、定例化・継続化が重要である。生徒の教師への視点も変化してくるであろう。 ・模試成績の分析に基づいた授業評価を行う。 ・授業力向上研修を予備校等に派遣し行う。	B
・開かれた学校とは、地域住民との接点を拡大し、地域に浸透することが肝要である。 ・オープンスクール、ホームページの更なる充実を望む。 ・地域の中学校との交流、体験授業等復活させる。 ・「武南だより」など地域へ配布する。	B
・進学実績の向上は教師の目的達成意欲と指導能力による。 ・1年生の段階から将来につながる生徒指導をお願いしたい。 ・特進コースに限らず生徒全体のレベルが上がっている感もある。具体的方策の継続が肝要である。 ・数値目標が明記されていることはよい。今後は単年度毎に目標設定を見直し達成率などを数値化すべきである。	C
・生徒の将来的観点から、社会人の視点での指導でよい。あいさつ、会話をするなどが大切である。 ・生活指導は「やってはいけないこと」だけを指摘するのではなく一人ひとりとの対話を心がけていただきたい。服装、マナーはしっかりしてきた。近隣の方の評価も聞いてみてはどうか。	B
・部活動の成果は実績、結果だけではない。具体的方策の繰り返し励行により生徒の心に浸透させる。 ・結果を出している部活にほめ言葉を、伸び悩んでいる部活へ激励をお願いしたい。 ・父母の会、後援会、同窓会などの外郭団体との連携を強めていきたい。	B